



## 来ていますか？「電気の蓄え」

年始早々、能登地方が大きな地震に見舞われました。いつ、我が身に降りかかるか分からない災害に備え、食料や水といった備蓄の他に電源の確保を考えておきましょう。

### 停電はあらゆる災害で起こり得ます

停電は、地震の時だけではなく、大雨や大雪、強風などあらゆる災害で起こる可能性があり、状況によっては回復まで時間がかかる恐れがあります。2019年9月の台風では、千葉県で最大64万戸が停電し、長いところでは復旧まで2週間もかかったそうです。

それだけに、いつ起こっても大丈夫なように、日頃から十分な対策をしておく必要があるかと思います。



### 一番不安なのは「スマートフォンの充電切れ」

今や90%以上の世帯に普及しているスマートフォンは、生活の必需品となっています。災害発生時に家族や知人と連絡を取りあったり、最新の情報を得る方法として真っ先に思い浮かぶのはスマートフォンではないでしょうか。

しかし、スマートフォンの電源は充電式です。使用を続けていくと、当然バッテリーの残量は減っていく一方、停電している中ではコンセントに差し込んで充電することはできません。電池切れになったスマートフォンでは連絡を取ることも、情報を得ることもできず、不便で不安な時間を過ごすことになります。

#### スマートフォンのバッテリー容量をできるだけ長持ちさせる方法

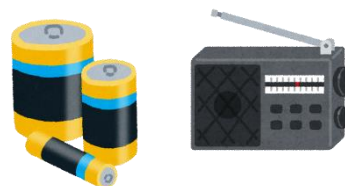
- ① 省電力モードに切り替え、CPUの負荷を減らす。  
(機種によって「省エネモード」「バッテリーセーバー」「低電力モード」など呼び名が異なる。)
- ② 画面を暗くして、消費電力を抑える。  
(自動オフ時間を短くする、画面の照度を下げる。)
- ③ 不要な電波の送受信をオフにして消耗を防ぐ。  
(停電でWiFiが拾えないときはオフ、Bluetoothも未使用ならオフ、GPSも未使用ならオフにする。)



「災害時に役立つ、スマホのバッテリーを長持ちさせるコツ」(パナソニックホームページ)より

## 電気を蓄えておく方法

蓄えておく電気の量によって方法は異なってきます。一番手軽にできるのは、懐中電灯や携帯ラジオに使えるように、乾電池を買い置きしておくことです。最近の乾電池の中には10年程度保存できる商品もあるので、購入の際にはぜひ確認してみてください。



スマートフォンの充電用としてはモバイルバッテリーも有効です。スマートフォンの機種やモバイルバッテリーの容量によって1～3回程度充電することができます。外出時に持ち運びができ、日頃から活用することができます。

もう少し大きな量の電気を蓄えておくには、ポータブル電源が有効です。USBポートだけではなく、ACポート（家庭用のコンセントと同じ）を備えている機種が多いので、スマートフォンの充電だけではなく、照明や扇風機などの家電を動かすこともできます。大容量タイプの機種では、電気ポットや電子レンジなども使用できるため、災害時の調理などにも役立てることができます。主にガソリンを燃料とする発電機のように燃料の管理や排気ガスの心配もなく、簡単に操作できるのがメリットです。



機種によって、蓄えられる電気の量、一度に出力できる電気の大きさ、重量などが異なります。購入を検討される際は、ぜひ比較をしてみてください。

停電への備えとしてどの程度の対策が必要なのかを検討し、見合った方法でぜひ準備をしてみてください。

参考：NHK 千葉放送局「ちばWEB 特集」ホームページ  
アンカージャパン公式サイト  
Togo Power ホームページ